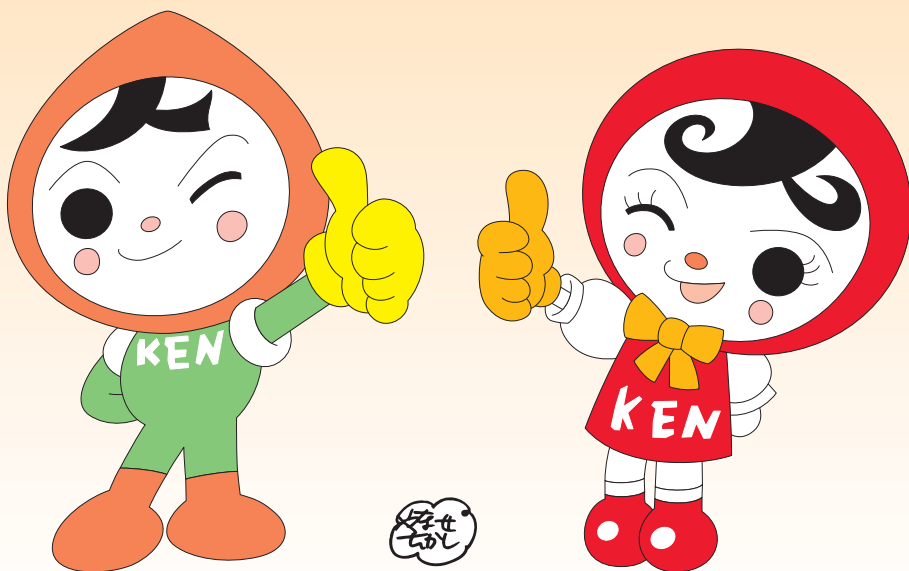


令和5年度
第42回
全国中学生人権作文コンテスト
広島地区大会入賞作文集



人権イメージキャラクター
人KENまる君

人権イメージキャラクター
人KENあゆみちゃん



広島法務局・広島人権擁護委員協議会



第四十二回

全国中学生人権作文コンテスト

広島地区大会 入賞作文集

は し が き

「ヒヤシンスのような皆が寄り添う世界に」「思いやりがあふれた世界を目指して」「同じステージ」「どんな人でも共生できる社会を」「小さな勇気が救うモノ」。これは、昨年度の全国中学生人権作文コンテスト広島地区大会優秀賞に選ばれた中の作文に付けられていた題名です。この題名に触れるだけで、どういった体験や考え、願いなどが書かれているのかと興味や関心を引き寄せられるのではないのでしょうか。

ご承知の通り、全国中学生人権作文コンテストは、中学生の皆さんが「人権」について考え、書くことを通して人権尊重の重要性や必要性について理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を身に付けること、更には、入賞作品を広報することにより、広く人権尊重の考え方を根付かせることを目的としています。その広報の一環として、広島地区大会における素晴らしい入賞作文を毎回作品集としてお手元に届けさせていたでています。ぜひ、一作品一作品をじっくり読んでいただき、書かれている内容を自分のこととして捉え、今後の日常生活に生かしてほしいと思います。また、この作品集を学級ごとに回覧して「朝の読書」の一冊に加えたり、お昼の給食放送や学年集会の一つの活動として係の人が読んで紹介したりするなど、様々な場面で活用いただくことを願っています。

終わりに、応募された生徒の皆さんはもとより、学校の先生方、その他関係者の方々に対し、深く感謝申し上げます。次回も、数多くの参加・応募があることを心より期待しています。

令和六年一月

第四十二回全国中学生人権作文コンテスト

広島地区大会審査会委員一同

目次

はしがき

(広島県大会優秀特別賞 広島市教育委員会賞)

自分の生き方は自分で決める

広島県立

広島中央特別支援学校

中学部

一年 竹村心吾…1

(広島県大会優秀賞)

優しい人になりたい

広島市立安佐南中学校

一年 松田爽…5

認めあう優しい世界

広島市立祇園中学校

二年 杉山愛依…9

誰にでも

広島市立高取北中学校

二年 長尾芽依…12

(広島地区大会優秀賞)

他の人には見えない世界

府中町立府中緑ヶ丘中学校

三年 谷口 虎哉汰…15

希望ある未来への選択

広島市立白木中学校

三年 北升 杏梨…18

いじめを受けた私が社会へ

伝えたいこと

広島市立安佐南中学校

匿名 名 希 望…22

「いじめ」と「いじり」

広島市立牛田中学校

三年 坂根 碧…26

(広島地区大会佳作)

心を大切に

海田町立海田中学校

三年 横平 幸芽…29

知ってほしい『ヘルプマーク』

広島市立伴中学校

三年 松浦 結心…32

「私も無意識のうちこそ!」

一人一人を大切に」

広島市立瀬野川中学校

二年 植村 咲心…35

仮面

広島市立早稲田中学校

三年 富田 菜月…38

みんなが笑顔の世界へ

広島市立祇園中学校

二年 大江 優里奈…40

広島県大会優秀特別賞 広島市教育委員会賞

自分の生き方は自分で決める

広島県立広島中央特別支援学校中学部 一年 竹村 心 吾

皆さんは「LGBTQ」という言葉を聞いたことがあるだろうか？そしてなんとなくでも意味を知っているだろうか？最近はニュースでもたびたび耳にするようになってきた。「LGBTQ」とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クィアまたはクエスチョニングの頭文字をつなげた略語で、いわゆる性的少数者のことだ。

そしてわたしは、トランスジェンダー。心と身体の性が異なる人というのに当てはまる。わたしは男性として生まれたが、心は女性なのだ。しかも、視神経こう腫という脳腫瘍があり、弱視で左半身に軽いマヒがある。

自分では覚えていないが、保育園の年中のころから「いつ女の子になれるの？」といつも母にたずねていたそうだ。両親は、初めは幼い子供が言うことだからと全く気にせず、「あなたは男の子に生まれたからあとから女の子にはなれないんだよ。」と毎回答えていたそうだ。しかしわたしは、年長になっても女の子になりたいと言いつつ、男の子の好きな遊びはいつさい興味がなく、女の子とままごとをするのが好きだった。その

ころから妹のワンピースやスカートをはきたがるようになった。そんな様子を見た母は、もしかしてこの子は本当に女の子なのかもしれないと思ったそうだ。母は当時の気持ちを、「視覚障害や身体的な障害があつてこれから先苦労することは目に見えているのに、更にニューハーフ（当時の言い方）か。この子はどれだけ大変な生活を送るのかと心配した。今思うと不思議だけど、女の子ということを受け入れられない気持ちは全くなくて、ただただ、あなたが苦労するのが可哀想と思った。」と話してくれた。

わたしは、小学生になったころから自分のことを「僕」と言わずに「わたし」と言うようになった。このころのことは自分でも覚えていて、友達に「なんでわたしっていうの？変なの。」と言われた。わたしは逆に「なんで変なの？」と思った。その時はまだ自分の気持ちをうまく友達に説明できなかった。でも自分のことを「わたし」と言うのはやめたくなかった。

そして、四年生の時には、より本格的に自分は女の子だと思い、そう行動し始めた。髪の毛を伸ばし始めた。さらに六年生からは女の子の服を着るようになった。このころには「なんでわたしって言うの？」と言っていた友達も受け入れてくれるようになった。六年生の時に担任の先生がわたしの気持ちをみんなに伝える時間をとってくれたからだ。自分の正直な思いを話して、ずっと理解してくれなかった友達が分かってくれた時は嬉しかった。ちゃんと話せばみんな分かってくれるのかなと思つた。今では、両親、学校の友達や先生など、たくさんの人がわたしの思いを受け入れてくれている。

しかし、母方の祖母はまだ受け入れてくれていない。「おばあちゃん家に来る時は女の子の服を着ないで。」「髪の毛を男の子みたいに短く切ったら？」「心吾は男の子なのに女の子みたいなの、はずかしいよ。」などと言ってくる。

わたしは「周りの人はみんな理解してくれたのに、なんで祖母だけ受け入れてくれな
いんだろう？」と納得できなかつた。周りの人にどう思われても、わたしはわたしだから、女の子の服を着て行きたいと思った。他の人がどう思おうとわたしには関係ないと思っていた。しかし母に「みんながみんな心吾の思いを分かかって受け入れてくれるわけではないよ。」と言われ、「確かにそうかも。」と思い、祖母の気持ちを考えてみた。祖母はずかしいと言っていた。わたしは今まで自分の気持ちを一方的にぶつけるばかりで相手の気持ちを考えたことがなかつた。わたしは女の子の服を着る自分はずかしいと思ったことはないけれど、祖母はそう思っている。両親や友達、先生がわたしの思いを受け入れてくれたように、わたしも祖母の気持ちを受け入れようと思った。髪を切るのは絶対に嫌だけど、男の子の服を着るのはがまんできると祖母に話し、お互い納得した。

わたしは心の底から自分は女性だと思っている。だからできるところは女性と同じようにしたいと思っている。周りの人には、まずはわたしのようになりたいというところを知ってほしい。その上で受け入れてもらえれば嬉しい。「LGBTQ」の人の中には、わたしのようにはっきりと周りに言えない人もいるらしい。周りの人が少しでも分

かってくれると思うと、その人たちもカミングアウトしやすくなるのかもしれない。みんなが優しい心を持って自分と違う考えの人を受け入れられるような社会になってほしい。



広島県大会優秀賞

優しい人になりたい

広島市立安佐南中学校 一年 松田 爽

私の双子の妹は、まだ言葉を話せない小さい頃に、熱性けいれんが一時間以上止まらなくなり、脳にダメージがいつてしまい、障害として残ってしまっている。だから、中学生になっても、二才くらいの子と同じ行動をするのだ。

妹が他の子とは少し違うと感じたのは、いつだっただろうか。私が物心つく前から、妹には障害があったから、保育園の年中くらいまではあまり、気にした事がなかったのだ。通う保育園が違っても、不思議には思わなかったし、そういう物だと思っていた。たぶん、母は何度も説明してくれていたと思うが、幼少期の私は聞き流していたんだと思う。

だが、保育園の年中くらいの時に母といっしょに私をむかえに来た妹を見て不思議そうに顔をしながら、友達が

「爽ちゃんの妹はなんで歩けないの？」

と、母に聞こえないようにこっそりと聞いてきた。私は答えた。

「ごめん、分からない。」

その出来事が心に残り、友達に聞かれた事を母にそっくりそのまま聞いた。母は、小さい頃の私でも分かるように、分かりやすく説明してくれた。その時にようやく、妹は、他の子とは少し違うと分かったのだ。別にその事が分かったからといって何か変わった事をする事もなかったし、妹の事でいじめられたりする事は、無かった。

ある日、買い物に母と妹と私で行った。

いつも通り、買い物を楽しんでいると、くすくすと何かを、ばかにするような嫌な笑い声が聞こえた。何か、変なものでもあったのかな…と思ひ、声のした方をみると、妹の方を見ながら、くすくすと小さな笑い声を立てながら、嫌な顔をしている人がいた。何か一言、注意した方が良いのかな…。

「妹をばかにしないで下さい。」とか…？

などと色々考えたが、私はその時妹にしてやれた事は、その人から、離れる事だけだった。私は、悲しかった。「障害者」というだけで差別される事があるという事を知ったからだ。悲しいと同時に、「なぜ…？」という気持ちがわいてきた。だれだって、そんな扱いを受けたら、嫌な気持ちになるはずなのに…。ともやもやした気持ちになってしまった。そのもやもやした気持ちを友達に話してみると、

「世の中、そんな人達だけじゃないよ。そんな人達は少なく、優しい人が多いと思う。もし、今度そんな事があつたら深呼吸をして周りを見てみなよ。優しい人もいっぱいあるはずだよ。」

と言ってくれた。私は、はっとした。障害者の事を笑う人しか頭にはなかったけれど、

障害者を助けてくれる優しい人もいる。大事な事が、頭から抜けていたみたいだった。

大切な事を教えてもらってから、少したったころ、シヨツピングモールのエレベーターで、ある女の人と出会った。その人は妹を見てから、

「かわいいね」と言って、妹と手遊びをさせたのだ。妹は、手遊びが楽しかったようで嬉しそうな表情をしていた。私は、正直びっくりしていた。初対面で、妹と遊んでくれる人がいたのは、はじめてだったし、しかも妹のような子になれている感じだったからだ。私がそんな事を考えている時に、女の人が口を開いた。

「私、お子さん向けの障害者専用のデイサービス（障害を持つ、小学生から高校生を対象として、支援を行う施設）で昔働いてたんです。だから、こういう子が大好きなんです。」

と話し、エレベーターから降りるまで妹と遊んでくれた。なんだか、私の心が温かくなった。友達が言っていたように、優しい人はたくさん居て、障害者の事を笑う人は少なかったんだなと改めて実感したからだ。その、女の人以外にも、優しい人は、たくさんいた。妹が、おばあさんを「とんとん」とたたいてしまった時に、母と私は「すみません」とあせりながら謝った。けれど、おばあさんは、「全然大丈夫だよ。」と妹の頭をなでながら言ってくれたり、小さい子（二才くらい）がせまい通路に居て妹の車椅子が通れなかった時に小さい子がはしに寄って「どうぞ。」と言ってくれたり、優しい人は、たくさんいた。そのたびに、心が温かくなって嬉しい気持ちになった。

私は、友達に言われるまで世の中には嫌な人ばかりだと思っていたけれど、優しい人もいて、優しい人の方が多い事を実感できた。そんな優しい人といっしょにいると、心が温かくなり、嬉しくなるから、私もそんな優しい人になり、だれかの心を温かくできる人になりたい。



認めあう優しい世界

広島市立祇園中学校 二年 杉山 愛 依

私は今、中学二年生、毎日学校に通って授業を受けています。でも二年前の六年生の秋頃、私はその日々を続ける事が辛くなりました。教室にはもちろん、学校に行く事すらできなくなりました。その間、家で自分なりに勉強をしながら、「なんで学校に行かないといけないんだろう」「私は何をしているんだろう」「私は何もできない人間なんだ」と、毎日たくさんのことを考えていました。

そして私は中学生になりました。初めの数日はなんとか教室に行っていました。しばらくたたくさんの人の中で生活していなかったのも、とても疲れてしまい、休んでしまいました。教室に行く事はできませんでしたが、教室に行きにくい人たちが行っている「ふれあいひろば」という教室に行ってみることにしました。その教室にはいつも八人ぐらいの人がいました。勉強をしたり本を読んだり、思い思いの過ごし方をしています。そんな中、ある人が私の目につきました。三年生の先輩です。その先輩は机に伏せたり、下を向いていたり、しんどそうな様子の時もある中で、たたくさんの授業に出ています。そんな姿を見て「がんばっているんだな」と思うと同時に、尊敬するようになってきました。

また、ふれあいひろばには、いろんな先生たちが来てくれました。そして、そこで過ごしている生徒一人一人に何気ない話をしてくれたり、笑わせてくれたり、褒めてくれたり、励ましてくれたりして、クラスの教室以外で過ごしている私たち生徒も気にかけて認めてくれていると感じることができました。

そして、私も家族や、先生、友達など、日々の小さなことで周りの人に褒めてもらい、それを自分でも受け入れていったり、尊敬する先輩の姿を見て、気持ちが変わっていき「今日は昨日より少し頑張ってみよう」と思うようになりました。学校にいる時間を少しずつ長くしてみたり、クラスでの授業に出てみたり、いろいろなことにチャレンジするようになり、一つ一つが自信になっていきました。それが今、私が毎日学校に行けるようになったことに繋がったと思います。

「毎日学校に行って、授業を受ける」ことを「頑張っている」と思うことは、人から見ると「ただ当たり前のことをしているだけ」と思われるかもしれませんが、でも、学校に行けなくなってしまう私も、その後、ふれあいひろばで勉強していた私も、今、毎日学校に行って、授業を受けている私も、そして、ふれあいひろばの尊敬していた先輩も、今、学校に行けていない人も、教室で授業を受けている人も：すべての人が、誰がどう思い、何と言おうとも、自分が「今頑張っている」と思えたなら、それは「頑張っている」と私は思います。まず、今、自分の中で少しでも頑張っていること、成長していることなどを見つけ、認めることが大切だと思います。

私は、尊敬していた先輩が卒業するとき、勇気を出して、感謝の手紙を書いて渡しました。先輩は突然のことで驚いた様子でしたが、「ありがとう」と微笑んで受け取ってくれました。私がしてもらったように、子供でも、大人でも、他の人の頑張りや努力していること、一生懸命になっていることを認めて「頑張っているね」と声をかけ伝えることで、小さなことでも誰かの心に明るい光をあげられる、そんな優しい世界になるのではないかなと思います。それが人権を守るために、私たちができる初めの一歩なのかなと思います。



誰にでも

広島市立高取北中学校 二年 長尾 芽依

仲間外れにされたことはありませんか。傷つく言葉を言われたことはありませんか。逆に、大切な仲間はいませんか。

私の友達は、明るくて元気でいつも笑顔です。何人かの友達でいつものように仲良くしていました。ある日突然一人の子がその明るい友達に冷たくなりました。それは誰が見ても分かるくらいでした。さすがに、明るい友達も気づいたようでした。その友達は「私何かしたかな。」と心配していました。私から見てもその友達が何かしたとは思えませんでした。そして、私は冷たい態度をとっていた子に「私小五のときから苦手だったんだよね。」と言われました。私にはその二人はとも仲良しに見えていたのでとてもびつくりしました。その子からなぜ苦手なのかを教えてもらいました。その理由は私も少し気になっていたことでした。「私もそこは気になっていた」と私は言いました。

それからその友達の愚痴を言う日々が続きました。みんなで部活に行くときにその友達だけが一人で歩いていることが多くなりました。また、その友達だけを誘わずに遊ぶこともありました。私はそういった事が起きる度その友達から笑顔が消えるのを見て辛くなりました。毎日その友達のことを考えていました。どうしたらいいのかも分からな

いし、その友達がどれ程辛かったのかを想像すると、自分はひどいことをした立場なのに泣いたらいけない立場なのに涙がどんどん溢れてきました。私はそれと同時に自分がその友達の消えた笑顔をもう一度、とり戻さなければならぬと思いました。

はつきりと何を言ったのかは覚えていませんが私はその友達に声をかけました。その友達は泣きながら今までどんな気持ちだったのか話してくれました。実際に本人から聞くとは分かっていたはずなのにとっても辛かったです。私はその時、冷たい態度をとっていた子とちゃんと話し合おうと心の中で決意しました。

私は家に帰ってからすぐにその子に連絡をしました。その子も傷ついてしまわないように優しい口調でメッセージを送りました。既読がついた瞬間、心臓がどこにあるのかはつきりと分かるくらい胸がドキドキしました。なんて返ってくるのか、自分も仲間外れにされるのではないか色々な不安が押しよせてきました。そしてその子からは、「私もやりすぎてるなって思ってた。」と返ってきました。その時私は「自分がやらなければならぬ」と感じました。それから私は「二人の心によりそいお互いが納得した状態できちんと和解してまたみんなが笑顔になれること」を願い、二人の相談にのり、色々なことを伝えました。もちろん大変だったけど二人ともしつかり自分の行動について考えていました。だから、私もいっしょに考え、行動をすることができました。

それからしばらくして冷たい態度をとっていた子にいつも通り相談を受けているとその子に「謝ろうかな。」と言われました。私はとてもうれしかったです。謝った後もし

ばらくは元の関係にはなれてなかったけどたくさんお出かけなどをしているうちに、私達はなんでも言い合える大親友になりました。

この出来事は私にとって忘れられないものになりました。

いじめをしないということは、ほとんどの人ができます。でも、いじめをうけている人によりそうことができる人は少ないです。私はさらにいじめをしている人にもよりそう人はもつと少ないと思います。みんなの心によりそうそれが人権を大切にするといいことです。私の二人の大親友は言いました。「よりそってくれて・はつきり言ってくれてありがとうございます。」次はあなたが出すんです。その勇気を。



他の人には見えない世界

府中町立府中緑ヶ丘中学校 三年 谷 口 虎哉汰

「顔の色が緑色だよ！」

そのように指摘されたのは、私が幼稚園の年中の時でした。

私は、生まれた頃から色覚異常を持っています。色覚異常とは、正常に見えている他の人たちとは色が異なって見えてしまう・感じてしまうことをいいます。なので、色の区別がつきにくいことが多々あり、生活に少し影響を及ぼすこともあります。その中でも先天性の色覚異常は遺伝子の組み合わせによって起こるもので、目や髪の色と同じように生まれる前から決まっております。一生変わることがないものです。生まれた頃から普通の人とは違う色が見えているので、他人から色のことについて指摘されるまで気づかないということが多いです。昔よりも医療が発達してきていますが、まだ治療する方法は見つかっていません。

私の母が最初何かおかしいなと感じたのは、私が幼稚園に入る前の四歳の頃でした。私在家でぬり絵をしていたときに起こした行動に関して母が疑問を抱きました。私が紫色の色鉛筆を持ちながら母に、

「この色の名前は水色！」

と言っていたので、もしかしたらほんとに水色に見えているのか、それともまだ小さいから間違えて色を覚えていのではないかなどと思いましたが、まだ曖昧だったのであまり気にしてはいませんでした。しかし、小学一年生の夏休みの絵を描く宿題で、楽しい絵を描いているはずなのに、空の色を真っ赤で描いていて、少し母が不思議に思い、小学校の希望者が受けることができる検査を受けてみました。すると、やはり色覚に異常があることが分かりました。私が色覚異常であると意識するようになると、他の人にはどのように色が見えてるんだろうと思ったり、今まで気にしていなかったことを気にするようになりました。実際に小学生の頃、黒板に赤色のチョークで書かれた文字が見えにくかったり、みんなが緑色と言っている紙が私には水色に見えたりなどの他の人との認識にズレが生じていて困りました。当時は家族には相談できるけれど、友達にはあまり相談できないという状態だったので一人で悩むことが多かったです。ですが、中学生になってからは友達に相談することも苦にならなくなりみんなに理解してもらえようになりました。世の中でも、カラーバリアフリーやユニバーサルデザインなどの配慮が多くなり、色覚異常をもついても生活がしやすくなりました。ですが、今でも困ることがあります。例えば、電車の路線図は、正常な人が分かりやすいように様々な色が使われていますが、逆に私のような人には分かりづらく、どの路線でどこへ行けるか分からなかったり、焼肉に行ったとき肉の焼き色が分からず生のまま食べてしまったり、自分には良い色の組み合わせだと思いう衣服の色も、他の人からしたら少し変な色の組み

合わせになっていくなどのことがあります。肉の色や服の色などどうしようもないものはまだ慣れていく必要があります。

私のように、見た目では分からないような障害を持っている人はこの世の中にはたくさんいます。自分が持っている障害について相談しにくいという人もいます。私達には、ただ一人として同じ人間はいません。なので、一人一人が世界にはどのようなことで困っている人があるのかを知ることが、人権を尊重しあい、お互いに理解できる未来にしていく上で大切なことだと私は思います。



希望ある未来への選択

広島市立白木中学校 三年 北 升 杏 梨

人には、その人自身が望んだ通りの選択をして、生きる権利がある。私がそのことを初めて実感したのは、私自身がはじめに遭って耐え続けていたのを先生に助けってもらった時である。あの頃のことは今でもはっきり覚えている。

幼い頃から、私は何か悪いことが自分自身や他人にあった時に、全て「自分のせいだ」と自らを責める傾向があつた。そして、小学校五年生の頃、私が初めて学級委員長を務めた時に、その難癖が私にとつて最大の仇となつた。私は、クラスを上手くまとめきれず、「あなたは他の人のことを何も考えていない。」「お前はクラスの足手まとい」と沢山の同級生からの誹謗中傷を受けた。家に帰ると毎夜家族の誰にも聞こえないように「自分は他の人の足を引っ張るだけの生きているだけで無駄な存在なんだ。だつたら、他の人のために、自殺して消えてしまった方が良いのではないか。その方が皆も幸せになれるに違いない。」と、心の中で叫びながら、大号泣していた。

その日以降、私は毎日同級生のある人からいじめを受け、それに耐え続けていた。そうしているうちに、鬱病や自殺自閉症、胃潰瘍になつた上、誰も信用できなくなつた。ある日、私は「明日は教室から飛び降りて死のう」と決意した。翌日、自殺の原因を明

かすために、担任の先生に「私はずっと、この人からいじめを受けています。もう耐えられないので、自殺します。」と、これまでのことを全て打ち明けた。すると先生は「自分のことを君は責めすぎている。北升さん、アナタは何も悪くない。アナタをいめている子にはしっかりと注意しておくから。」と言った。

その次の日以来、私をいじめていた同級生は、私だけでなく、他の人に対しても一切いじめをすることがなくなった。

いじめがなくなつたからと言って、私の鬱病などの精神的苦痛や人間不信は一向になおる気配がなかった。理由は明白だ。「お前はクラスの足手まとい」という言葉が胸の内から消えていなくなつたからだ。その言葉を言われた同時期に私は周囲の人から私の将来の夢について否定された。

私はクイズを解くことが好きだ。そんな私は、より多くのクイズを解くために幅広い知識を身につけたいと思ひ、ある大学に入学する夢ができた。しかし周囲の人は「その大学にアンタが行けるわけない。」「諦める。」と私の夢を散々否定してきた。

だから私は、周りの人のことを一番に考えて行動するようにした。その一方で私の人に対する不信任は増していくばかりだった。

中学校二年生の秋頃、とうとう私は自分が何のために生きているのか分からなくなつた。中学校の担任の先生にこのことを話し、いじめられていた過去も全て語つた。「杏梨ちゃんは、今、他人軸で生きているけど、アナタは他の人の操り人形じゃないから、

杏梨ちゃんの思う通りに生きてほしい。」という回答が返って来た。それだけではない。「私は杏梨ちゃんのことを足手まといだと思ったことは一つもないし、何ならいろんな人が頼りにしてると思うよ。」とも言われた。

振り返ってみると、中学校では意地悪な人はいないし、勉強や委員会で頼ってくれる友達ばかりだなと思った。「北升さんは、クラスの統括力が圧倒的にスゴイ。」と、私のことを認めてくれる人も大勢いた。

中学校の担任の先生に相談したおかげで、ここは小学校とは違い、私は皆に認められていてということに気づき、鬱病を始めとする精神異常が全てなおった。また、他の人のことも少しずつではあるが、信用できるようになった。

今では私は、学校の先生は勿論、友達や先輩など、沢山の人に支えられているし、「夢を叶えてほしい」と応援してもらっている。

ついに、私が望んだ通りの選択をすることを許されたのだ。夢を叶えるために自信を持って生きることができるようになったのだ。誰かに否定されても、自分の意見を思い通りに伝えて凹まなくなったのだ。

落ちこぼれだった私ですら、周りの人に支えてもらっているおかげで今を生きている。誰でも否定されたり、いじめを受けたりしたら、自分の意見に自信を持たないまま他の人の意見に従ってしまい、思い通りにならないことがあるだろう。

でも、必ず一人一人の人間は、誰かに信頼してもらっていたり、誰かに必要とされて

いるということをおぼれないでほしい。なぜなら、世界中のどこの国であろうが関係なく、一人一人の人間に、その人自身が望んだ通りの選択をして、生きる権利があるのだから。生きる道は沢山ある。困難にたずまわずいても、死という選択を取る必要はない。困難という壁を乗り越えた先には、必ず希望のある未来が待っている。生きて、希望のある未来を辿って行つてはどうだろうか。



いじめを受けた私が社会へ伝えたいこと

広島市立安佐南中学校 匿名 希望

私が中学校に入ったばかりの時、クラスメイトの中に、気が合いそうな人がいました。その人、Aさんはとても積極的な人でした。少しずつ仲良くなって、部活も同じ部活動に入りました。

今思えば、この選択は間違っていたのでしょうか。同じ部活動に入ったこの時から、いじめがスタートしていったのです。

はじめは小さなことでした。部活の練習中に名前をわざと間違えて呼んだり、じゃれ合い程度の悪口の言い合いを毎日してくるというもの。数日であれば「おふざけ」で済むのですが、何週間も続けてされると、少しずつストレスがたまってきてしまいます。しかも

「もういいかげんやめてよ」

と、私が言ってもやめない。少しだけ、部活に行くのが嫌になってきました。

夏休みが明けると、本格的になってきました。

私がウォーミングアップを終え、ボールをかたづけようとした時、背後にいたAさんが突然、私の背中に強いアタックを当ててきたのです。私がおどろいていると、Aさんとその友達が私に近寄り口々に

「ごめんね」

と言ってきました。私は、その迫力に気押され、許してしまいました。このような暴力はその日だけでなく、週に一度という頻度で行われました。Aさん一人ではなく、十数人ほどの人数がAさんに付いていると思うと、部活や教室へ行く気力が無くなり、不登校になってしまいました。

今、社会では、「いじめを無くす運動」のようなものを行っています。しかし、私はその運動の意味を問いたい。その運動により、どのような効果が得られると考えているのかを私は知りたい。

私は、悩んだ末に担任の先生に相談しましたが、軽く考えられ、何一つ動いてもらえませんでした。スクールカウンセラーや学年主任の先生に相談するなど、自分から行動したことで、なんとかおさまりました。

しかし、いじめによる被害の全てが消え去った訳ではありません。『いじめられた』という事実。苦しんでいることに気づいてくれなかった担任の先生。話を聞くだけで、何も動いてくれなかったスクールカウンセラー。これらにより負った傷は癒えることはありません。

私は、この経験を通して言いたい。先生は、子供の集団をまとめ、一人一人の責任を負っていることを忘れないでほしい。そして、少しでも違和感を感じたら、注意するようにしてほしい。スクールカウンセラーは、話を聞くだけでなく、解決のために行動す

るのも仕事だということを忘れないでほしい。話を聞き、一時的にすっきりしても、またいじめられたら意味が無いから。

社会では、「いじめ」というと、身も心も傷だらけでひどいものを指します。ですが、私は、その考え方は間違っていると考えます。私が小学校六年生の時の担任の先生が言っていました。

『嫌だ。と思ったならそれはいじめなんだ。』

その通りだと思います。やっている側からするとささいなことでも、やられている側はものすごくつらく思っているかもしれません。私の場合もそう。Aさんが、いじめをする理由をきかれた時、何と答えたと思いますか。

『あなたの反応がおもしろいから。』

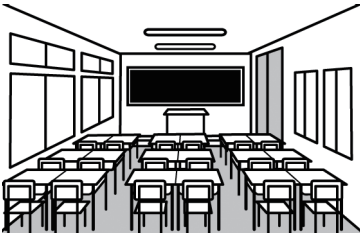
『これがいじめとは思ってもなかった。』

彼女にとって、私をいじめるのは、ただの遊びにすぎなかったようです。

いじめは、やられている人だけが見ることのできる、妖怪や幽霊のようなものです。彼らは、一人の力では祓うことはできません。周りに助けを求め、周りの人は救いの手をさしのべ、彼らを祓わなくてはなりません。どんなに微々たるものでも、積み重なれば強力なものへと変化し、命の問題へと広がっていきます。

少しでも会話をする時間をつくってください。少しの異変にも気づけるよう、努力するようにしてください。小さなことも問題として考え、解決しようという意志を持って

ください。
これが、私から社会へ伝えたい思いです。



「いじめ」と「いじり」

広島市立牛田中学校 三年 坂根 碧

「いじめ」と「いじり」の境界線とは何なんだろう。いじめの定義、いじりの定義など正直分らない。難しい問題だと感じたが、私は小学生のとき体験した出来事を思い出した。

A君は、私のクラスメートだった。彼は非常に活発な性格だったため、明るい人柄であるうえに、急に話に割りこんできたり、突発的に特定の人を休けい中に追いかけて回したりする行動の影響で、一部の人間から迷惑な存在だと思われていた。

「A君、追いかけて回すのやめてよ。」

こんなたった一言の注意を呼びかけるだけで事がおさまればよかったのに、A君が注意を聞かずしつこかったのもあり、次第にみんなは注意する気もうせて、彼から離れるようになっていった。だが、そこからA君に対するみんなの態度がおかしくなってきたのだ。A君がただ普通に近寄ってきただけなのに、みんなはその場から逃げ出したり、次第には、

「みんな逃げろ！」

「Aの菌がうつるぞ！」

など、何もしていないA君に無意味な暴言が吐かれていた。私はそんなひどい言葉を簡単に言ってしまった方がいいのか、それはいずれ「いじめ」へと繋がっていくのではないか、いや本当はもう無意識に「いじめ」をしているのでは、色んなことを考えた。気付いてしまった。でも分からないフリをした。分かりたくないのかもしれない。分かってしまったって、いじめの関係者にも当事者にもなるのが心底いやだったのだらうと思う。だから、分からないフリを続けてしまっていた。

しかし、ある日A君の件をBさんが担任の先生に相談した。そして、その日のうちにクラス全員でそのA君の件に関して話し合いが行われた。話し合いの最初、普段優しく温厚な担任の先生が、少し口調を荒げて、

「この中でA君を菌呼ばわりしたやつ、立ちなさい。」

と言った。誰も立たなかった。私の中で心当たりのある人たちは誰も立っていなかった。先生は何も言わず、ずっと立っていた。そして、数分後にC君が椅子から立ち上がって、「すみません、僕しました。」

と言った。そこから、C君を始めとして、

「僕しました。」

「私もしました。」

と数名が立ち上がった。その中には涙ぐんでいる人もいた。先生は最初に立ったC君に「なぜA君にそんなことをしたのですか？」

と聞いた。C君は、

「A君がしつこくつきまどってくるのがいやだったからです。」

と声を震わせながら答えていた。それを聞くと、先生はA君に、

「なぜ、A君はC君たちに対して追いかけて回したりしたんですか？」

と問うと、A君は、

「困らせたい訳ではなかった。ただ仲良くしたかったんだ。」

と言った。彼はとても不器用な性格なだけだったのだ。みんなそれを聞くと

「A君、本当にごめん。」

と謝り始めた。A君も自分にも非があったことを自覚して、謝り今後どうしていくかもしつかりとみんなと話し合っていた。私は互いがもつとしつかり話し合いを進めて意見を分かり合えていればすぐに解決できたんだという思いと同時に自分がとてもみじめだなと思えた。自分だって気付いていたのにずっと知らないフリを続けていたなんていじめをする側と一緒にいる。いつまでも関係ない第三者側であるべきなんて思っている。Bさんのようにはつきりと口に出せる人間になりたいと感じた。私はまだ中三でこれから高校でも社会人になっても「いじり」が「いじめ」へと発展するケースは十分にあり得る。自らがそれに気付かないフリをする前に口に出して言えるようになりたい。救える側の人間になることを目標として、成長していきたいと思った。

広島地区大会佳作

心を大切に

海田町立海田中学校 三年 横 平 幸 芽

ある有名人の方が何年もの間SNSでの誹謗中傷に悩まされ、命を落とされたことをニュースで知りました。その方が受けた誹謗中傷についてインターネットで少し調べてみると、信じられないような恐ろしいコメントが書かれており、私は心を刃物で刺されたような痛みを感じ、言葉を失ってしまいました。

どうして誹謗中傷は起きて、なくならないのだろうか？調べているうちに、主な要因として「行き過ぎた正義感」「没個性化」「集団極性化」という三つの要因が目にとまり、これら三つの要因について私なりに考えてみることにしました。

まず「行き過ぎた正義感」ですが、コロナ禍になりマスクを着けていない人を罵倒したり他県ナンバーの車を傷つけたりするという行為が起きました。これらは、「協力しない人は悪だ」「相手に落ち度があるのだから当然だ」という、行き過ぎた正義感から起きたと考えられています。これらの行動をとる人は、自分が正しく相手が間違っていると思っただけのため誹謗中傷をしていることに気付いていないそうです。このことから私は「行き過ぎた正義感」から起こる誹謗中傷を防ぐには、自分が正しいと思うことで

も相手の考えや都合に耳を傾けることが大切なのではないかと思えます。私自身も小学生の時は、グループ発表のときなどに友達の意見を聞かずに全部自分の考えで進めていました。ですが中学二年生のとき、はつとする出来事がありました。国語の授業でディベートのテーマを班で話し合っていたときのことです。究極の二択として、私が「目と耳どちらが大切？はどう？」と軽い気持ちで提案すると、友達に「でもそのテーマだと、目が見えない人や耳が聞こえない人が聞いたらどんな気持ちになるかな？」「そんなテーマで話し合つて盛り上がるのは失礼だね」と言われ、私は自分の眼中でしか物事を考えておらず、軽々しい意見を出した自分がとても恥ずかしくなりました。この一件から、私は他の人の意見を聞かずに自分一人の意見しか持っていないのは危なくもつたいたいと思うようになりました。「動画を見るのと音楽を聴くのはどちらが好き？」今ならそんなふうに言いたいです。

次に「没個性化」と「集団極性化」についてです。「没個性化」とは、匿名で発言できるため攻撃的な主張をしやすくなる現象のことです。そこにSNSでは「群集心理」が働き、責任が分散されるため極端な意見になりやすい「集団極性化」という現象が重なり、衝動的・攻撃的な発言が広がりやすくなるそうです。これらのことは、SNSだけの問題ではないと思います。例えば、表立って一人で悪口を言う人はあまりいません。ですが、陰で何人かで誰かの悪口を言って盛り上がることはあります。おそらく、陰で言った方が悪口を言ったことが特定されにくく、何人かで言うことで「みんなも言って

いる」という安心感が生まれるからだと思います。仮に私も誰かに嫌なことをされたとしても、おそらくその人の悪口をみんなの前で堂々とは言いません。ですが、モヤモヤした気持ちの中、誰かがその人の悪口を言っているのが聞こえたら、一緒になって悪口をたくさん言ってしまうかもしれません。するとさらに感情的になって、されたこと以上の行き過ぎた発言をしてしまうかもしれません。もしそうになったら、誹謗中傷なんて全くする気のなかった私が加害者になりかねないと思います、恐ろしくなりました。

これまで私は、誹謗中傷をする人の心理が全く分からず、SNSにコメントを書きこむこともないので自分と誹謗中傷は関係ないと思っていました。ですが、誹謗中傷の要因について調べてみると、自分にも当てはまることが分かり、いつ自分が加害者になるか分からないと思いました。

今回調べたことを通して、私が誹謗中傷をしないために今すぐできることは、感情に任せた発言をしないこと、もし友達が人の行動や意見を最初から否定しそうになったら、「理由を聞いてみようよ」と声をかけることだと考えます。誹謗中傷は絶対にしてはいけないことだと一人一人が強く認識することはもちろん、自覚なく誹謗中傷をしてしまう人も少し自分を客観視してみることで、踏みとどまるのではないかと思います。どうかこれ以上、心ない誹謗中傷により命を落とす人が出ない世の中にするため、これからも私にできることを考え行動していきたいです。

知ってほしい『ヘルプマーク』

広島市立伴中学校 三年 松 浦 結 心

みなさんはヘルプマークを知っていますか。ヘルプマークとは、配慮や援助を必要としている事が外見から分からない方が付けているマークです。東京都が発祥で、現在は全国に広がっています。

私のお父さんは、五、六年前からヘルプマークをつけています。メンタルの病気がきっかけで気を失って倒れたり、痙攣発作がでたりする症状が出ます。お父さんがこのヘルプマークをつけている理由は、もし立っている時に発作がおきてたおれる時に人さまきこんでケガをさせたらいけないし、座っている時発作がでて気を失っていたらただ寝ているだけだと思われて気づかれにくいからです。公共交通機関などでヘルプマークをつけていると優しく席を譲ってくれる方がいる一方、まだヘルプマークのことを少し悪く思っている人もいます。アストラムラインで普通の席にすわっていると、「ヘルプマークつけとるやつがなんで普通の席にすわってるんだ」と言われたり、逆に譲りあいの席にすわっていると「そのマークつけとったら座れると思っとるんか」と言われたりすると聞きました。でも、悪かったことばかりではありません。アストラムラインで発作が起きて薬を飲もうと思ってもなかなか開けることができなくて困っていた

ら、ある学生さん達が「大丈夫ですか？」と薬を開けてくれたり、ペットボトルのキャップを開けてくれたりして手伝ってくれたようです。このように、ヘルプマークについて理解できている人もいれば、あまり理解できていない人もいるという事が分かります。ヘルプマークには、もしもなにかあったときのために、とつても大事なものなんです。ヘルプマークはただのマークではなく、裏面になにかあったときのための緊急連絡先が書いてあります。ただのマークだと思っている方も多いですが、その人を助けるための大切なものです。ヘルプマークは「自分は障害や病気があると周囲に知られてしまふ」というデメリットがあります。だからと言って付けないというのもあまりよくありません。対象の方が「付きたい」と言うのなら付けた方がいいと思うし、「付けない」なら付けないでも、その人の自由です。

私はお父さんからの話を聞いたりして、改めてヘルプマークの大切さが分かりました。アストラムラインなどの公共交通機関などで助けてくれるように少しでも理解や認識ができている方もいれば、なかなか理解しきれていない方もいるなと思いました。もし私にヘルプマークを付けている人を見かけて困っていたりしたら、まずは優しく「大丈夫ですか？」と声をかけて、少しでもその人の気持ちが落ちついたり楽になったりするようなサポートをしてあげたいなと思います。公共交通機関などに貼ってあるヘルプマークなどについて書いてあるポスターをぜひ一度目を通してみてください。そして困っている方がいたりしたら、助けてあげてください。みんなで理解しあえるようなも

の
に
な
っ
た
ら
い
な
と
私
は
思
っ
て
い
ま
す。



「私も無意識のうちにも!? 一人一人を大切に」

広島市立瀬野川中学校 二年 植村 咲心

私は、そのとき、心になにか刺さったような気がした。でも、私も同じことをしているのかも知れない。

私は、二〇一九年の一月から、二〇二三年の一月まで約四年間メキシコという国にいた。そこで私は、日本との文化の違い、考え方の違い、人のあたたかさの違いなど、たくさん体験した。一年目は、このたくさん違いになれることに必死で、あつという間に一年が過ぎてしまった。私が大変だったのは、二年目からだ。二年目は、ちょうどコロナウイルスが流行した年で、メキシコもその影響を大きく受けた。私の行っていた日本入学校も休校になり、オンライン授業の毎日。とてもたいくつで本当につまらなかった。そんな私にも一っだけ楽しみにしていることがあった。初めのころはできなかったが、半年もたつと、ほんの少しの時間だけ外に出歩けるようになった。もちろんちゃんと、マスクや帽子などをして、消毒スプレーも持って、感染対策をして出歩いた。しかし、一年前の来たばかりの時よりも、人が本当に少なく、あんなに、にぎわっていた市場も、しんと静まりかえっていた。私は、そこで初めて、コロナウイルスという存在の怖さを知った。そして、一年もすると、まだ感染者数は多いが、少しずつ、少しずつ

つ旅行などにも行けるようになった。そこで、私たち家族は、自宅から二時間ぐらいのサンミゲルという町に旅行に行ってみることにした。

サンミゲルについて、さっそく町を散策。すると、私たちが住んでいる町よりも、少しにぎやかだった。そしておみやげ屋さんとかのの前を通っていると、「你好、チイ、オ谢谢」シエシエなどと、メキシコ人が私たちに向かってあいさつをしてきた。そこで私は思った。「そうか、私たちが、アメリカ人やヨーロッパ人などと違いがわからないように、メキシコ人もアジア系の人たちは見分けがつかないんだ。」と、なので私が「ありがとう。」と言うとメキシコ人も「ありがとう。」とつたない日本語ではあるが、返してくれた。そこで私は、久しぶりに、家族以外の人と話して、コミュニケーションの楽しさを知った。これがまさかあんなことになるとは……思いもよらなかった。

私は、その「ありがとう。」と返してくれた、メキシコ人の店に入っていた。するとさつきまで、やさしい顔だった人が急にしかめっ面で私たちに怒鳴ってきた。なにごとかと思ったら、どうやら私たちに「出て行けっ。」とスペイン語で言っているようだった。そのことにおどろいた私は、何も言えず、出て行くことしかできなかった。そして、そのことを知ったお父さんが、「なんで？」とお店の人に英語で聞いてくれた。すると、お店の人は私たちに向かって「コロナウイルス、コロナウイルス。」と言うだけだった。たしかにそのころ日本では、コロナウイルスが流行していた。しかし、私たちは、一年前からメキシコにいるし、その間、一度も日本に帰っていない。それに、この日は別の

お店でもサングラスに指一本ふれただけで、「ノー、ノー。」とずっと言われた。「なんでこんな思いしなればいけないんだろう。」私は注意されたときに、心になにかとても重いものが刺さったような気がした。私はその日、ホテルに帰るまで、ずっと不機嫌だった。でも、ホテルについてから、もう一度よく考えた。「今、アジアではコロナウイルスが流行している。私たちは、アジア人扱いからという理由だけで決めつけられて店に立ち入り禁止にされた。でも、私も、日本にいるとき、外国人を少しでもこのよくな目で見たことはないだろうか。」言語を通じないかもという偏見、コロナウイルスに対する差別、何か怖そうという偏見など、私たちも無意識のうちに外国人に対する差別や偏見、感染症に対する差別や偏見があつたかもしれない。私は今回このようなことを体験して、自分が外国人側になつてみて気づいたことがたくさんあつた。

私がこの作文を通して伝えたいことは、『人を見た目、国、言語などで、差別をしたり、「日本の人ってみんな几帳面だよな。」などと偏見をもったりするのをやめてほしい。』ということだ。もちろん、見た目メキシコ人だけ日本語ペラペラな人もメキシコにいた。生まれた国はタイだけど、メキシコで育つたという人もいた。中国人だけど、中国語話せないという人だっている。だからこそ、偏見で差別をするのではなく、人、一人一人を見て、その国だけでなく、その人に興味をもってほしい。私の今の目標は世界中の人、一人一人と話して友達になること。そのためにはもっとたくさん勉強して、国際交流などがたくさんできる高校に行つてみたい。

仮面

広島市立早稲田中学校 三年 富田 菜月

話すこと、クラスにいることが怖かった。

私は中学生になってから、急に毎日が不安と恐怖に襲われた。小学校高学年の頃、何度か嫌がらせをされたことがあった。その時は、いつも誰か大人に相談していたが、ある時から私は、自分自身を隠すようになった。

小学校の卒業式が近づいてきたある日、私は探検バッグ（バインダー）に「死ぬ」とか「キモイ」と書かれていたことを先生に相談した。先生はみんなの前で「これを書いたのは誰だ!」と言った。先生は私の名前まで、みんなに言った。みんなに注目された。先生の話が終わると色んな人がグループになって、「まじダルいわ。」「どうせ作り話だろ。」と話し、笑っていた。この瞬間から私は、相談したら、もつといじめられる。

「相談したらダメ」「泣いたらダメ」「逃げることは悪いこと」そう思い、私は仮面を被るかのように自分を隠しはじめた。隠しはじめてからは、周りから何かをされても誰にも、何も言わなければ、これ以上嫌な思いをしなくて済んでいた。

中学生になってから、初めは誰とでも普通に話せて、いじめなど無かった。しかし、それも一瞬のことで、私は再び仮面を被り、笑顔や明るい雰囲気無理やり作った。二

年生になってから教室にいること、誰かと一緒にいることが、とても怖くなった。つらさも、苦しさも、誰にも言えず、今まで一度も遅刻や欠席をして来なかったのに、何度も遅刻するようになった。そんな時、助けてくれたのがクラスの友達だった。その子は、遅刻を何度も繰り返している私に声をかけてくれて、相談にのってくれた。その子にだけは、仮面を被らず話すことができ、「相談したらダメ」「泣いたらダメ」「逃げることは悪いこと」という思いから、少し解放された。

どれだけつらくても、悲しくても、苦しくても、様々な負の感情を持っていても、人に言うのが怖いから、仮面を被り、笑顔や明るい雰囲気を作っている人が今、目の前にいるかもしれない。いじめた人も、本当はつらくて、強がって仮面を被っているのかもしれない、と私は思う。

いじめのある状況で、いじめられた人だけがその痛み、つらさに耐えているのではなく、いじめの現場を目撃したけれどいじめた人と一緒になって笑う人、いじめた人にもそれぞれ何か理由があって、本当の感情を隠して、人に当たることで感情をコントロールしたり、つらさや怖さ、不安から逃れているのだと思う。そうして、仮面を被ってしまっていると思う。

それでも、いじめは絶対にあってはいけない。いじめられた人、一緒になって笑う人、いじめた人、それぞれの負の感情に少しでも寄り添ってあげられると、この世界を生きやすくなれると思う。

みんなが笑顔の世界へ

広島市立祇園中学校 二年 大江 優里奈

今年も九月一日が来る。夏休み明け初日のその日を恐れた子どもたちが自ら命を絶つ。それを「九月一日問題」ということをテレビを見て知りました。私は、いじめに悩んで最悪の選択をする人が多くいることをとても悲しく思いました。

そこで私は、いじめとは何か考えてみました。以前、数人の友達と話しているとき、AさんがBさんの外見をからかってみんなで盛り上がっていてBさんも笑っていたけれど、他の人もからかいに加わってきて、だんだんとBさんの表情が曇っていることに気が付きましたが何もできませんでした。今考えると、このような小さな出来事の積み重ねから、いじめにつながっていくの难道うかと思いました。みんなは、いじめているつもりはなかったとしても、Bさんはいじめられていると思っていたのかもしれないので、その場の雰囲気と相手の受け止め方によって変わるということを感じました。

また、学校では「キモい」「死ぬ」という言葉が聞こえてくる場合があります。その言葉をもし私が言われたらすごく悲しく嫌な気持ちになります。人は相手の本当の気持ちを知ることができないのに悪口や陰口を言っているのでしょうか。暴力は目に見える傷だけでなく、言葉の暴力は目に見えない心の傷になるし、最近ではSNSで匿名での悪

口の書き込みも多いようです。匿名だから誰が書いたのかも分からないので直接本人には言えないようなことまで書き込まれたり、話を無視して仲間はずれにしたりなどの「ネットいじめ」というものもあることが分かりました。

いじめというものは、誰にでも加害者になったり、被害者になる可能性があるもので、ひとりひとりの個性やちがいを否定したり、悪気のないからかいや、いじりから発展していじめにつながっていくこともあることを知りました。いじめが原因で、学校に行けなくなつて居場所が限られてしまつたり、誰にも相談できないで一人で抱え込んでいる人がまわりにも多くいるのかもしれないと改めて思いました。

このようなことを知って、いじめをなくすためにできることを三つ考えました。まず一つ目は、加害者にならないためにもし自分がされたら嫌なこと、言われたら嫌なことを考えてみて、自分が嫌だと思ふならやらないという相手の立場になつてみてから行動に移すことです。また、自分の行動が原因で傷ついていると気づいたら、すぐにやめて謝り、そのことを再び起こさないようにするという気持ちが大切だと思ひます。二つ目は、被害者になつてしまったときに一人で抱え込まず、誰かに相談をして気持ちをし少しでも軽くし、解決策を見つけることです。それでも解決できなければ、無理に教室へ行かずフリースクールに行つてみたり、SNSから距離をおいたりして逃げることも必要だと思ひます。三つ目は、傍観者になつてしまつて、止めるのもむずかしそうだと思つたら、こつそり被害者に「大丈夫？」や「大人に相談したほうがいいんじゃない？」な

どと相手に寄りそった声かけをしてあげることです。いじめを他人事だ、自分には関係がないからといって見て見ぬふりをするのではなく、勇気を出して声をかけてあげると少しでも変われるきっかけになると思います。

命は誰にでも平等に一つだけです。その時間をどう使うのかはひとりひとりの自由だけれど、人をいじめてその人の自由を奪うことは絶対にいけないと思います。これから私はみんなが嫌な思いにならないよう、お互いを思い合い、認め合っていじめを起こさないようにしていきたいです。また、最近ではいじめもいろいろな形で増えてきていることを知りました。ひとりひとりが心がけて「九月一日問題」というものを無くし、夏休み明けが楽しみだと思えるような世界になってほしいです。



こどもの人権110番

受付時間：平日8時30分から午後5時15分まで

フリーダイヤル ぜろぜろなのひゃくとおばん

0120-007-110

いじめにあったとき、困ったことがあったときは、
携帯・スマホ・PHSからも利用できます。

インターネット人権相談受付窓口

<https://www.jinken.go.jp/> (パソコン・携帯電話・スマートフォン共通)



SNS (LINE) による人権相談

友だち追加はこちらから！

アカウント名：「SNS人権相談」 検索ID：@snsjinkensoudan



第四十二回全国人権作文コンテスト

広島地区大会入賞作文集

令和六年一月 印刷
令和六年一月 発行

発行者 広島人権擁護委員協議会

広島市中区上八丁堀六番三十号

広島法務局人権擁護部内

印刷者 鯉城印刷株式会社

広島市中区十日市町二丁目八番二号

◎ 本作文集を転載又は教材等に使用される
場合は左記にご連絡ください。

広島法務局人権擁護部

電話 〇八二一〇二八二八―五七九〇

FAX 〇八二一〇二八二八―八〇八七

